

令和6年度 静岡市健康福祉審議会  
第1回介護保険専門分科会

1 日時

令和6年11月14日(木) 午後8時15分から午後9時00分まで

2 場所

静岡市役所静岡庁舎新館3階コミュニティ&ダイニングスペース茶木魚(ちゃきつと)

3 出席者

【出席委員】

○介護保険専門分科会

富安会長、石川委員、石田委員、長田委員、小澤委員、狩野委員、  
国京委員、杉山委員、宗委員、高山委員、原川委員、八木委員

※欠席：市川委員、谷口委員

【事務局】

○高齢者福祉課

杉原課長、海野課長補佐、深沢係長、村松主査、安間主事、外山主事

○介護保険課

平林課長、橋本係長、板谷主事

4 傍聴者 0人

5 概要

(1) 開会

(2) 議題 介護保険事業計画進捗報告について

(富安会長)

それでは事務局から説明をお願いします。

(平林課長) 資料説明

(富安会長)

静岡市の特徴は、後期高齢者の数が伸びていること、予防的な介護保険の使い方によって受給率が高いこと等をご説明いただきました。それではご意見等はございますか。

(八木委員)

コロナやインフルエンザで亡くなる方が多く、人口が減っているのかなと感じています。但し静岡市は予防注射の補助金を出していただく等、非常に予防に協力していただけていると思っております。

訪問系サービスが減っている印象ですので、そのあたりを増やしていただければと思っています。また特養も昔は月7～8万円で入れましたが、今10万円を超えており、普通の施設と同程度であり、入所するのが大変になっている方が多い気がします。そのあたりを考えていただければと思います。

(平林課長)

訪問系サービスにつきましては、静岡市も静岡県と協力しながら人材確保等に今後も励んでいきたいと思っています。ヘルパーは有効求人倍率が15倍という特異的な数字となっておりますので、対応を考えてまいります。

特養の金額については、介護報酬部分や日常生活費等の自己負担部分も金額はある程度決められている中で、確かに負担は大きくなっており、住宅型有料等の安いところとあまり変わらなくなってきたということは把握しておりますので、今後国への要望や調査をして検討していきたいと思っています。

(長田委員)

介護保険を利用している方が増えているということですが、介護が必要とされている方でも介護保険について知らない方・利用されていない方が多いと思います。私の薬局にもそういう相談が来ます。地域包括支援センターに相談すると、そのまま要介護認定を受けることも多いです。介護保険が必要な方の人数が増えていることで予想がされること、介護保険について知らない方が増えているということも想像して考えていただければと思います。

(平林課長)

計画においても地域包括支援センターの認知度を目標としており、なかなか100%は難しいところではありますが、今後も周知方法を考えていきながら、市民の方が困ったときにすぐに相談できる環境づくりに努めるとともに、掘り起こしをした部分を計画の中に反映するように対応していきたいと思っています。

(石田委員)

地域の中でも介護(保険を知らない方)も含めて色々困ったことが色々あり、ヘルパーや民生委員の皆様に色々頑張っていただいています。今情報が共有されないということがあり、もう少し情報が入っていただくと我々も地域を守れますし、良い方向にいくのではないかなと思います。よろしくお願いいたします。

(平林課長)

自治会連合会の皆様におかれましては、介護に限らずご協力いただきましてありがとうございます。市民の方に必要な情報を的確に届けられるよう、自治会連合会と話をする機会もございますので、意見をいただきながら充実させる方法を考えていければと思います。

(高山委員)

介護相談をしていますと、地域にもよりますが、知らない人が家に入出入りするのを他人に見られるのが嫌、ということがあります。知られたくないのか知らないのかわかりませんが、デイサービスを利用すると車が来たり、ケアマネさんが来たり、普段見ない人に来られるのが嫌という方もいらっしゃいました。知らないのか知っていても拒否するのか、考え方がまだ広がっていないのか、やはり相談を受けて大変だね、という話しかできませんが、色々な情報は相談に来られた方には提供できるように、色々なところに私たちも目を向けて相談者に対応していこうと思いますが、そういう部分で若い方にも介護保険や地域包括のことを知っていただければと思っております。

(平林課長)

おっしゃるとおり、介護保険制度も若い世代からある程度理解していただければ、介護というものは恥ずかしいものではない、受ける権利があると、家族の方が理解していただければ拒否的な考え方も少し緩和されるところもあると思います。当課も介護の出前講座等を開いていますが、高齢者の方が多く、今後は健保組合等にも出向いていくようなことも考えていきたいと思っております。

(杉山委員)

高齢者数や認定者数等、実際ケアマネとして現場で関わっている体感としても、このような感じかなと、よくわかるどころだと思いました。

多種多様なサービスが出てきて、名前を聞いただけでは難しいこともできてきているので、このサービスはこういうものだよ、という特徴的なところを簡潔に皆様にお話できるようなツール等を考えていければ良いかと思っております。団塊の世代の方が後期高齢者になり、お子さんが若い世代になってきていますが、情報社会ということで、インターネットで正しい情報も正しくない情報も両方取っていらっしゃいますので、この中で制度の利用につながるような話をしていかなければいけないと考えております。

(平林課長)

ケアマネの皆様には介護保険制度のキーパーソンとしていつもご協力いただきありがとうございます。ケアマネの皆様とも意見交換をさせていただき、行政がどのような発信をする利用者につながるのかについてもご意見をいただければと思います。年明けには意見交換会の予定もございますので、よろしく願いいたします。

(宋委員)

前からわかっていたことですが、介護を必要とする方の数が増えて、介護をしてあげる人が減っていくわけですね、人口の比率からすると。そう遠くない将来に介護が破綻しそうな気がします。自己負担や介護に使うお金がどんどん増えていくのはこれからも必然的なことです。私は介護認定審査会の委員もしていますが、あれはどちらかと言うと介護を利用できるよということで認定するわけですけれども、利用する方や自己負担もどんどん増えていくという、仕方がないわけですね、自己負担が増えて、家族等支える人の負担が増えるのは必然なので、そういう認識を市民の方にも持ってもらわないと。あれやってくださいこれやってくださいみたいなことばかりになって問題になりそうな気がします。そういうケアマネのようなものもそもそも必要なんじゃないかなと感じてしまいます。

(平林課長)

国でも自己負担を2割にする等の意見も出ている中で協議をしていますが、社会保障費の中の介護保険分も11兆円を超えているということで、負担をする方も限界が来ているのは確かでありますので、そのような意見も含めて、国に意見要望等を出させていただきます。貴重な意見をありがとうございます。

(石川委員)

資料2（「医療介護データの利活用状況」）ですが、これは地域包括から要望があって出したのでしょうか。それとも市から積極的に出したのでしょうか。

(橋本係長)

令和6年3月に地域包括支援センターの会議で、データが必要な場合は出しますのでご連絡くださいというご案内をし、ご要望をいただいた3包括にデータを提供したという経緯です。

(国京委員)

事業計画については、数値の計画と実施ということで、計画と比較して実績の数値上はうまくいっていると思いますが、できれば個別の事例（特に、困難事例）についての情報や浸透させるためにはどうしたら良いとか、そういう話があった方が議論としては建設的かなと思いました。そういった情報も併せてご提供いただけると良いかなと思います。

(平林課長)

次回以降、また資料作成時に検討させていただきます。ありがとうございました。

(富安会長)

ここまで、全体を通じて、何かご意見・ご質問等がありますでしょうか。時間の関係もありますので、当分科会での質疑応答はこれでいったん終了とさせていただきます。

その他ご質問等がございましたら、11月22日までに、事前にお知らせさせていただいております、事務局あてにご提出ください。